

2. MRI検査時に化粧品によって引き起こす問題と諸注意

星 由紀子 東北大学病院診療技術部放射線部門

MRI検査時には、化粧品が原因となる問題が起こる場合がある。化粧品には酸化鉄などの金属を含む製品が多くあり、アーチファクト^{1), 2)}, 吸引, 熱傷³⁾などが起こりうる。化粧品の種類と名称を把握することにより、MRI受検者へ注意喚起を行う際にも役立つと考えるため、本稿では、化粧品の種類の解説および諸注意について述べる。

化粧品の種類

化粧品は、基礎(スキンケア)化粧品、メイクアップ化粧品、ボディ化粧品、毛髪化粧品、芳香化粧品に分類される⁴⁾。MRI検査で問題になるものは、主にメイクアップ化粧品と毛髪化粧品であるため、それらの代表的な名称、役割、特徴を解説していく。

主な化粧品の名称・役割・特徴

1. メイクアップ化粧品

1) ファンデーション

顔全体に塗り、シミ・そばかすを隠す、肌を美しく見せる、紫外線や乾燥から肌を守るなどの役割がある。パウダータイプ、リキッドタイプなどがある。

2) チークメイク(頬紅)

頬に塗り、陰影をつける、血色良く見せるなどの役割がある。パウダータイプが多い。

3) アイメイク

目元のメイクの総称で、酸化鉄を含む製品も多い。

・アイブロウ(眉墨)(図1)

眉に付け足して眉を整えて見せる役割がある。ペンシルタイプが多い。

・アイシャドウ(図2)

まぶたの化粧品で、目元を彩り目を大

きく見せる効果や、目元に立体感を出す役割がある。パウダータイプやクリームタイプがあり、色の種類は最も多い。

・アイライナー(図3)

目の縁に線を描く化粧品で、目の輪郭を際立たせ、目をくっきり、大きく見せる役割がある。ペンシルタイプやリキッドタイプが多く、色は黒、茶が多い。

引いたラインは「アイライン」と呼ぶ。人により、目の上の縁だけではなく、目の下の縁に描く場合もある。

・マスカラ(図4)

まつげの化粧品で、まつげを多く見せる、長く見せる、目をぱっちり見せる役割がある。ブラシ式のジェル状で、長く見せるために繊維が含まれるものもある。色は黒が多い。

4) 口紅, リップライナー

唇に塗る化粧品で、唇を彩る役割がある。

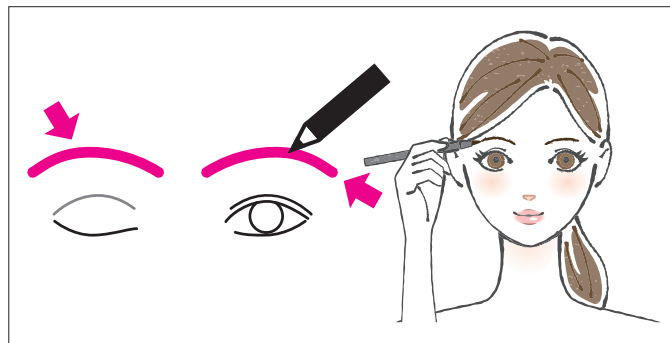


図1 アイブロウ(眉墨)

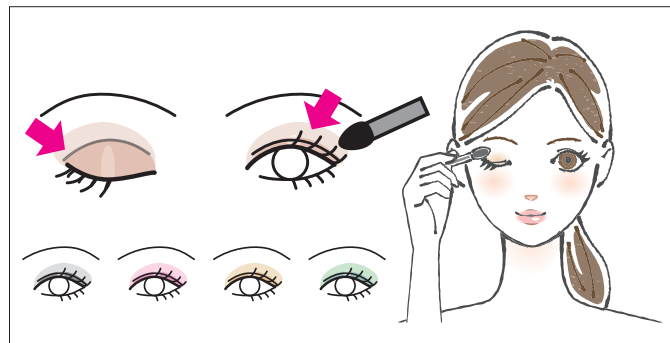


図2 アイシャドウ